

## □最近の活動状況

## 【第10回朝食懇談会】

— 4月7日(木) ホテル辰巳屋 —

講師 福島市長 小林 香氏

テーマ 「『活力あふれるまちづくり』に向けて」

参加会員数 38名



講師 小林 香市長

## ○中小企業振興基本条例の目指すもの

平成27年12月に制定しました、中小企業振興基本条例には4つの基本的な考えがございます。

まず、第一に、中小企業の皆さまは、地域経済を支えており地域社会において極めて重要な存在です。今後、多様で活力ある成長・発展を遂げていただくために、中小企業自らが経営向上の努力をし、行政や関係団体などそれぞれの立場において連携・協力して中小企業を支えていくことが必要と考えています。

第二に、中小企業振興の基本理念や施策の基本方針の明確化。

第三に、条例の実効性を担保する仕組み。中小企業振興基本条例は理念条例ですが、少しでも実効性を担保することが必要と考え、中小企業振興会議を条例の中に規定しています。

第四に、産業各分野の連携や市組織横断の総合的施策を推進していくこと。以上が基本的な考えです。

次に条例のねらいです。

(1) 厳しい環境でも活力のある中小企業の育成です。例えば、販路の開拓、展示会・商談会出展への助成、ものづくり企業交流会などを企画し支援していきます。また中小企業向けの融資制度、信用保証料の補助なども行っていきます。創業応援利子の補給については、特に女性の場合、男性よりも利子補給の期間を長くとり、女性が起業しやすい環境を整えています。

(2) 中小企業団体、大企業、金融機関、大学などによる、中小企業を支える連携や協力を進めていきます。産学連携協同研究支援事業も行います。

(3) 市民の理解・協力も必要と考えています。具体的には、地場製品の消費や商店街イベントへの参加や協力などです。

(4) 児童・生徒の中小企業に関する理解の促進です。福島市にどのような企業があるのか、児童・生徒の皆さんに認識してもらうための取り組みとして、小中学生の皆さんに市内の事業所を訪問してもらっています。中学生ドリームアップ事業として職場体験活動も行っています。

(5) 人材の確保、育成、定着を促進するための施策を進めていきます。具体的には、人材育成・研修に関する助成、就職ガイダンスなどの就職支援、雇用促進コーディネーターによる企業支援などを実施することを考えています。

(6) 雇用の安定や従業員が安心して働き続けられる環境づくりを進めていきます。健康の増進や、ワーク・ライフ・バランスの実現、子育て支援などを進めていきます。

(7) 地域資源の活用や産業間の連携を図っていきます。異業種間の連携や交流をもっと推進できればと考えています。

(8) 地場製品の消費・利用をしていきます。農産物に限らず工業製品についても、また市役所で調達する資材や機材についても極力福島市内で調達することを意識的に行いたいと考えています。

(9) 交流人口の拡大、定住の促進です。福島市は四季折々美しいところです。地域の資源を観光資源としてより積極的に活用していきたいと考えています。交流人口の拡大として、様々な会議、コンベンションの誘致を考えています。国に働きかけて、会合を

福島市で開催してもらいたいと思っています。

(10) 企業立地の促進、医療・福祉関連産業などの集積を目指し、福島県立医科大学や福島大学とのさらなる連携を図っていききたいと考えています。医科大学にはふくしま国際医療科学センターが設置されますので、福島市内に医療・福祉関連企業の誘致や技術がさらに伸びるような取り組みを行っていききたいと考えています。

(11) 条例のねらいの最後に、福島市組織全体での総合的な施策の実施を部局横断で取り組まなければならないと考えています。

以上が、中小企業振興基本条例の概要です。条例の趣旨に則り、市、中小企業がそれぞれの役割を果たし、活力あふれるまちづくりを推進していききたいと考えています。

## ○元気の創出に向けて

今、東北中央自動車道が建設中です。今後、福島市や県北地方が交通の要衝となりますので、この機会を積極的に活用し地域振興を図っていききたいと思っています。また福島大笹生インターチェンジが今年の秋に供用開始されますので、インターチェンジ周辺に新たな工業団地造成に向けた、調査・協議を進めております。

福島市の経済・産業の復興と発展のために、積極的な企業誘致や、コンベンション事業誘致、くだもの王国のPRなど、様々な機会を捉えてトップセールスを実施していきます。

## ○中核市になるとどうなる？

中核市を目指す理由は、市民サービスの向上と活力・魅力あるまちづくりを進めていくためです。県と市の2段階で行っている許認可事務を市が一元的に行うことにより、事務の効率化や処理時間の短縮が図られるとともに、相談窓口が一本化され利便性が向上します。

移行時には市保健所を設置します。保健所を設置することにより、安全・安心で総合的な保健衛生サービスを提供できるようになります。

市民サービスの向上の他に、連携中枢都市圏を構築することができるというメリットがございます。県北地方の中心都市として、周辺自治体との広域連携を進めることで社会経済の活性化が期待できます。

中核市への移行は未来に向かって発展するまちづくりのスタートですので、ご理解とご協力をお願いします。ご清聴ありがとうございました。

(文責 事務局)

## 【第29回全国経済同友会セミナー】

— 4月14日(木)～15(金) 岡山市 —

全国経済同友会セミナーが4月14日～15日、岡山県岡山市にて開催されました。今年の総合テーマは「世界に輝く地域を創ろう～桃太郎の郷(くに)から発進～」と題し、全国の経済同友会から1,420名と過去最多の会員・関係者が参加、当会からは渡部代表幹事、阿部代表幹事を始め5名が出席しました。

初日は、開会挨拶の後、英経済誌エコノミスト元編集長のビル・エモット氏の基調講演に続き、5つのテーマで分科会が行われました。

2日目は、分科会の報告の後、小林喜光経済同友会代表幹事が総括挨拶をされました。その後、大原美術館理事長の大原謙一郎氏による「文化・芸術・人文の力 経済人の視点から考える」と題した特別講演が行われました。

来年の全国経済同友会セミナーは4月20日と21日の2日間、仙台市で開催予定です。全国の同友会メンバーと交流する絶好の機会ですのでぜひ多くの会員のご参加をお願いいたします。



ビル・エモット氏

【第11回朝食懇談会】

— 6月14日(火) ホテル辰巳屋 —

講師 国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所長 石井 宏明 氏

テーマ 「復興支援道路(相馬福島道路)の整備と効果について」

参加会員数 41名

現在、整備が進められている復興支援道路(相馬福島道路)、東北中央自動車道(福島JCT～米沢北IC)の進捗状況についてご説明いただきました。これらの道路が開通することにより、高速道路ネットワークが構築され企業活動の支援や観光交流圏域の拡大など多様な効果が期待されると述べられました。また、一般国道13号福島西道路2期計画の概要と整備の必要性もご説明いただきました。



講師 石井 宏明 所長

□事務局だより

平成28年4月～6月に入会・変更のありました会員を紹介します。(敬称略)

新規入会	 <p>平成28年5月入会 うりゅう としのり 瓜生 利典 (株)エフコム 代表取締役社長</p>	 <p>平成28年5月入会 さかい よしつぐ 酒井 良胤 (株)エディソン 代表取締役社長</p>
	 <p>平成28年5月入会 たかはし まさゆき 高橋 雅行 (株)福島民報社 代表取締役社長</p>	 <p>平成28年5月入会 うべ しゅんあき 馬場 俊彰 東日本倉庫(株) 代表取締役社長</p>
会員交代	 <p>平成28年4月交代 くまだ だいすけ 熊田 大輔 オリックス(株) 郡山支店長</p>	 <p>平成28年4月交代 こじま としひこ 小嶋 俊彦 三井住友海上火災保険(株) 福島支店長</p>
	 <p>平成28年6月交代 み た すすむ 三田 進 福島製鋼(株) 代表取締役社長</p>	<p>引続き会員増強にご協力をお願い申し上げます。 (平成28年6月23日現在 会員数83名)</p>

編集日誌

- ◇熊本地震により被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。
- ◇昨年、九州旅行した際には、今回の地震で被害を受けた地域も訪れており、テレビや新聞等で被災地の現状を目にする度に胸が痛みます。何か出来ることはないかと考え、微力ですが熊本県産品を購入しよう心がけています。
- ◇またいつか訪れるその時まで、この気持ちを絶やさずに復興の歩みを応援し続けたいと思います。(今野)

## □会員企業紹介 【第11回 菅野建設株式会社】

今回は当会の常任幹事を務めていただいている、菅野建設株式会社の菅野社長にインタビューしました。建設業界を取り巻く環境の変化は著しく多種多様な課題を抱えている中で、生き残りを図るための経営理念についてなど様々なお話を伺うことができました。

### ○創業の経緯

戦時中、私の父は、宮城県船岡にある海軍工廠の施設で働いていました。今でいうところの現場監督で、土木工事の仕事に携わり技術を習得し、昭和22年に福島市で独立しました。建築を主体に土木と造園も手掛けていましたが、昭和39年に父が亡くなり、その後を母が引き継ぎ、会社として生き残るために建築に特化して仕事を続けてきました。



代表取締役 菅野 日出喜 氏

40歳で普通の主婦から建設会社の社長となった2代目は、「会社は『人』なり」を経営理念とし、社員一人一人の努力によって成り立つ会社だということを今まで通してきましたし、これ以上の経営理念はないと思っています。

### ○菅野建設としての矜持

東日本大震災の起きる前から、宮城県沖で30年以内に大地震が発生する確率は99%と言われており、震源地が宮城県沖なら福島にも被害は出るだろうと考えていました。いざというとき、お客さまの下へ駆けつけられる会社でいるために「プライドを持って仕事をしよう」と社員に言い続けていました。震災前、景気が悪くマインドが冷えていたとき、リストラや経費節減をしなければならない中で生き残っていくための心の拠り所は自分たちのプライドでした。一生懸命に仕事をしているからこそ次の展開が必ずあると信じ、想いを社内全員で共有していることが必要でした。

激動の時代を生き残ることは、どの職種にもいえませんが並大抵ではないと感じています。それだけに、やりがいと面白さがあります。

我々の仕事は、形の無いところから始まります。建物を造りお客さまに引き渡しをして終わりではありません。そこから建物に対する評価が始まります。年数を経過するとともにお客さまの満足度が高まるのか、冷えるのかが我々の勝負です。満足度が高まっ

ていく建物を造るために、見えないところにこそ技術を結集し丁寧な仕事を心掛けています。

### ○兄貴から弟へ

技術研修等の勉強会へ積極的に参加し、必要な資格は取得してもらいます。しかし、資格を取得したからといって社内に馴染めなければ意味がありませんので、当社では、入社すると面倒を見てくれる「兄貴分」を周りが作ってあげます。困ったときは兄貴分に聞く。家族的な雰囲気の中で、経験に基づく知識や確かな技術力、そしてプライドの伝達が自然と行われている環境が整っています。

### ○今後の展望

集中復興期間の5年間は必死に復旧活動に取り組みました。創生期間と言われる次の5年間はプロジェクトも限られてきますし、更にその後は厳しい環境が訪れることが考えられます。その中で、お客さまの満足度を維持できる体制を保持し仕事として確立していくために、営業の範囲をもう一度見直し明確にしていきたいと考えています。

今後も建設を通じ社会に貢献し、地域に根ざした企業としてお客さまの信頼と期待に応えられるよう努力して参ります。



住 所	〒960-8036 福島市新町6番33号
設 立	1947年11月
従業員数	50名
T E L	024-535-1311
U R L	www.kannokensetsu.co.jp/